

地域教育

地域と共に生きる教育を

町・学校・地域の連携で



なかじま いちろう 議員
中島 一郎

具体的には、地域の環境を生かした自然体験、地域産業、祭りの伝承活動など必要な内容を教材化して、地域と学校、保護者等が連携し学びの場の充実を図って行く。

答 大西町長

問 子ども達に地域で学ぶ場の提供をして、地域の良さや素晴らしさを知って貰い、愛着心のある、ふるさとを担っていける次世代の人材育成、人づくりを目指せないか。

地域の良さを知ること、この町に住み続けたい、働きたいと考えている子ども達は多数いると思われる。それがふるさととキャリア教育の最大の使命であり、行政や学校教育現場が携われば良いという性格ではないことから、町ぐるみで子ども達を育て、如何にして町の産業分野との関わりを持たすことができるかが、大切なこととなってくる。

答 畦地教育長

今回の総合戦略の中でも、ふるさとキャリア教育として、子どもの成長に地域総掛かりで積極的にいかかり、ふるさと貢献意識の育成を戦略として取り上げている。

水産業振興

カツオ不漁対策の要望は

関係市町と連携強化する

問 国・県への要望は、行政が主体性を持ち漁業者の身近にある問題を把握して、直面するカツオ不漁対策や活餌供給対策などに危機感を持ち、近隣の市町との連携した取り組みが必要ではないか。

答 今西海洋森林課長 町は、カツオ資源問題を始め、県全体で一体となった対外的な発信活動に積極的に参加している。



カツオ一本釣り

活餌供給対策についても、主に土佐沖でカツオ漁をしている10tから19tの漁船をターゲットにしており、これらの船団との連携強化を図ると共に、カツオ漁で活路を見出している近隣の市町と意見交換をすることで連携した取り組みなどを模索している。

特に中土佐町とは、過去の歴史や関係性も強く運命共同体で取り組むこととする。

公共施設

旧佐賀保育所の利用は

適正な利用を 目指す

問 今年3月に新しく佐賀保育所が完成し、4月に移転した。旧施設については、住民の要望や意見を幅広く求め、佐賀地域の中核拠点施設としての役割を果たし、安心して暮らせる町づくりを利用する考えはないか。

答 矢野地域住民課長 旧佐賀保育所の利用計画については、昨年6月以降に、教育委員会が中心となって利用計画をまとめた。

その結果、あつたかふれあいセンター、図書館、放課後子ども教室、園児送迎バス待合スペース、各種事業や地域の集会所的なスペース、防災に特化した京都大学等のサテライト事務室などへの利用が決定している。



全室の利用計画がある旧佐賀保育所の全景

答 畦地教育長

公共性を考え、公的事業を優先して割り振りをし、全室を利用する計画となっている。

【その他の質問】
・創生総合戦略について